



建物が完成した柳田総合支所
(おおぞら農協柳田支店側から撮影)

地域の拠点施設

柳田総合支所、開所に向け準備が進む

柳田総合支所は、建物が完成しており、令和2年1月6日より業務を開始します。現在の柳田庁舎を解体した跡地に駐車場などを整備することから、外構部分は新庁舎への移行後に工事となります。施設内には総合支所事務室、会議室、24時間利用可能なトイレが整備されています。

興能信用金庫柳田支店は令和2年1月6日より営業を開始します。

フロアマップ



総合支所裏側、奥に見える柳田庁舎は解体され
駐車場が整備される



令和2年1月6日業務開始

柳田総合支所

所在地 能登町字柳田仁部 50 番地
構造 木造平屋建
延床面積 494.2 平方メートル

本格始動

内浦総合支所

令和2年1月6日業務開始



所在地 能登町字松波 13 字 75 番地 1
構造 鉄骨造平屋建
延床面積 1,734.65 平方メートル

内浦総合支所完成、複合施設として業務開始

10月25日、内浦総合支所落成式が行われました。各種会合や催しに対応できるよう会議室やホール、図書館、調理室を備えており、地域のにぎわいを創出する中核施設として期待されています。

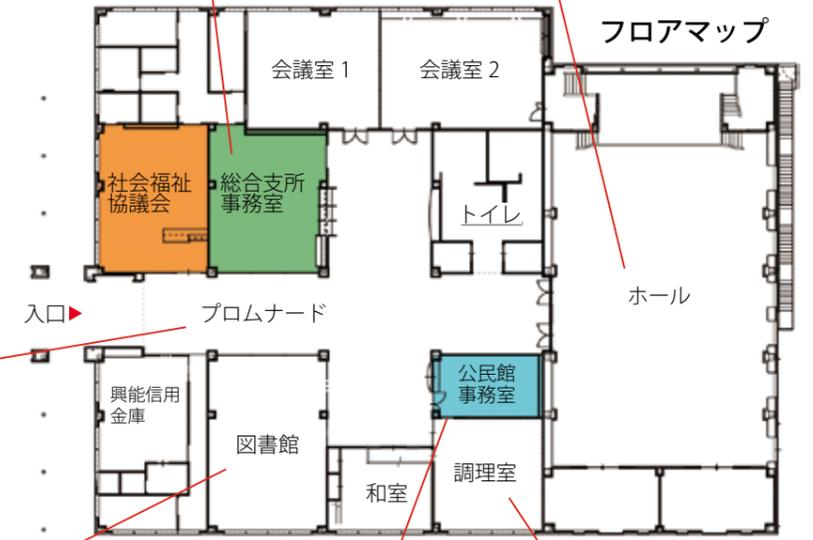
このほか施設内には、松波公民館、能登町社会福祉協議会が11月から入居しています。

内浦総合支所と興能信用金庫松波支店は、令和2年1月6日より業務を開始します。



総合支所窓口

ホール (落成式の様子)



プロムナード



図書館



公民館事務室



調理室

「能登町消防団応援の店」表示証交付式



11月1日、役場能都庁舎にて、「能登町消防団応援の店」表示証交付式が行われ、11月1日現在で登録されている8店舗へ持木町長から表示証が交付されました。消防団応援の店とは、全国の消防団員を対象に各店舗で各種サービスや割引等を提供し、応援店と消防団のイメージアップ、地域防災力の向上を目的としています。登録店舗、サービス内容は、町ホームページまたは日本消防協会のホームページで確認できます。

11月20日現在の登録店

店舗名	住所
カラオケShima	宇出津新
万福屋（居酒屋）	宇出津新
スナック潤	宇出津新
スナック琥珀	宇出津
初玉（居酒屋）	宇出津新
茂平食堂	宇出津
鉄板カラオケさくら	宇出津新
焼肉居酒屋あさひ	宇出津新
焼肉 若旦那	天坂

能登消防署 ☎ 76-0085

消防職員意見発表会 西谷、東手消防士が受賞



(左から) 東手消防士、西谷消防士

10月24日、第38回奥能登広域圏消防職員意見発表会が消防本部で開催され、能登消防署から出場した西谷喬之消防士が最優秀賞、東手雄太消防士が優秀賞を受賞しました。

西谷消防士は奥能登広域圏事務組合消防本部代表として、11月29日に石川県消防学校で行われる石川県消防職員意見発表会に出場します。

「戸締まり用心、火の用心♪」園児らが防火パレード

11月12日、秋季火災予防運動の一環として能登町内浦地区幼年消防クラブによる防火パレードが町内の2カ所で行われました。松波では松波こども園の園児42人が、小木では小木こども園の園児26人が参加し、それぞれ約1kmを歩いて住民に火の用心を呼びかけました。

幼年消防クラブは、子どもたちが火災の怖さを認識するとともに地域へ啓発することを目的に活動しています。



拍子木を打ちながら火災予防を呼びかけた（小木地区）

能登町消防団出初式

日時 令和2年1月4日(土) 9:00～

場所 能都体育館

式典終了後、いやさか広場で一斉放水を行います。ぜひご覧ください。(10:20頃)



秋の褒章



黄綬褒章
福池正人さん(72) 柳田

大学を卒業後、北能産業に入社以来約半世紀、建設業に従事してきました。昭和62年からは30年近く社長を務めたほか、現在も石川県建設業協会常任理事として建設業の発展に尽くしています。

柳田総合支所建設工事や北河内ダム整備、能登半島地震の際には倒壊家屋の解体工事に携わりました。旧柳田村で初めて集落排水を整備するにあたっては、従業員を金沢で研修させるなど人材育成にも積極的に取り組んできました。

「建設業は地域と一体であり、人々がいるからこそ仕事がある。地域の活性化、町民の幸せに貢献したい」と話す福池さん。会社経営は後継者にゆずりましたが、地域振興への情熱は常に持ち続けています。

秋の叙勲



瑞宝双光章
林一秀さん(70) 小木

「今回の叙勲は、私がもらったというより地域の皆さんのお力添えがあったからこそです」と感謝の言葉を述べた林さん。

自営業の傍ら、昭和48年9月に内浦町消防団小木分団に入団以来、平成27年3月までの長きにわたり、その使命を自覚し、任務を遂行してきました。

平成12年、小木分団長に就任し、地域住民に対しての啓発活動として防火座談会や消火器による初期消火訓練を精力的に行いました。平成23年には能登町消防団長に就任、地域防災の自主組織作りを積極的に働きかけ、地域の防火防災思想の普及に努めました。

「東日本大震災を機に津波への危機感が強まった」と振り返り、消防団員は地域住民と協力して備えてほしいと話しました。

危険業務従事者叙勲



瑞宝単光章
中間一吉さん(71) 宇出津山分

昭和46年に石川県警察学校を卒業後、39年間職務を遂行しました。県警本部に配属された後、金沢中署、金沢東署、寺井署、羽咋署勤務を経て、平成20年、七尾警察署を最後に退職しました。「寺井署勤務時代、検問をしていたところ助けを呼ぶ一台の車があり、妊婦さんが乗っていた。今にも産まれそうとのことで急ぎよパトカーに乗せ病院へ運び、到着後間もなく赤ちゃんが産まれた」と思い出を振り返りました。

退職してしばらくは夫婦で余生を楽しんでいましたが、縁あって現在は珠洲警察署能登庁舎に勤務しています。

「受賞の名譽を汚さぬよう精進し、安心安全の確保に協力していきたい」と語る中間さん。今でも現役時代の気持ちを忘れていないようでした。